

概 報

553.48 : 550.85(524) : 622.348

北海道幌満鉱山ニッケル鉱床概査報告

高 島 彰* 梅 本 悟*

Résumé

Nickel Deposit of Horoman Mine, Hokkaido

by

Akira Takabatake & Satoru Umemoto

Brief information on the Horoman nickeliferous pyrrhotite deposit in the Hidaka mountain range, Hokkaido, is given in this paper.

1. 緒 言

昭和27年8月上旬の4日間、北海道幌満鉱山ニッケル鉱床を概査した。鉱石についての詳細な報告は後日に譲り、とりあえず鉱床の概要をこゝに報告する。

2. 位置および交通

鉱床は北海道様似郡様似町幌満、幌満川支流のオピラルカオマップ川上流にあり、交通は日高線終点様似駅より国鉄バス日勝線で幌満に至り、こゝから幌満川に沿つて遡ること約20kmで山元に達する。なお幌満市街地より山元まではトラックを通ずる。たゞし冬期は馬糞によるほかない(第1図参照)。

3. 沿革および現況

鉱区番号 日高支廳採掘第10, 13, 18, 48号

鉱業権者 富本朝二

昭和10年現鉱業権者がニッケル鉱区を出願、その後多くの人の調査によつて有望な鉱山であることが確められ、昭和18年本格的な開発に着手し若干の出鉱を見たが、終戦とともに休山、昭和26年一時採掘が行われたが、ふたゝび休山して今日に至っている。

現在までの生産量は下記の通り：

粗 鉱		Ni %
昭和15年	1,700 t	0.4
16	1,182	0.4
17	397	0.4
18	300	0.4
19~20	不明	—

* 鉱床部



0 10 20 30 40 50 km

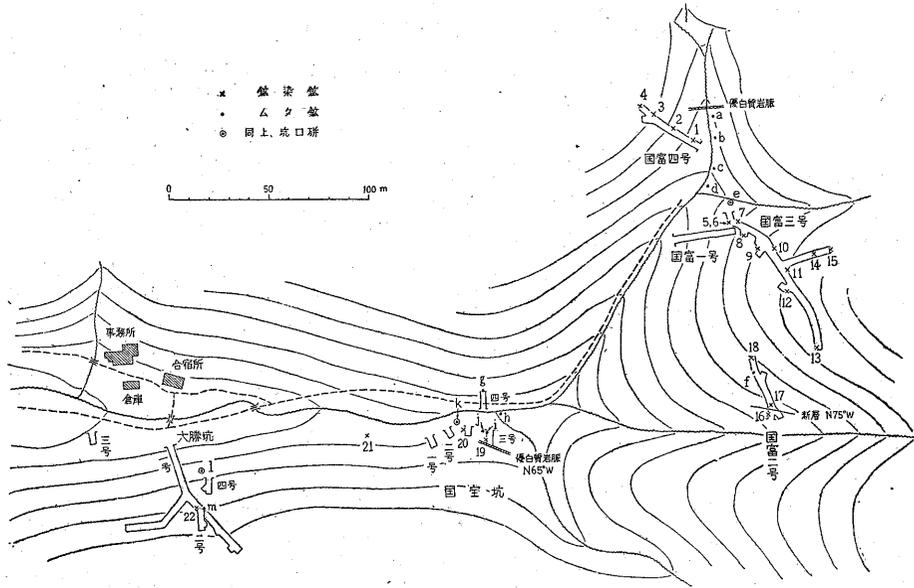
第1圖 位置交通圖

昭和26年4~7月	325	0.3
精 鉱		Ni %
昭和16年	442 t	0.8
17~20	不明	—
昭和26年4~7月	65	1.0

現在山元に「ムク」鉱数10tの貯鉱がある。

4. 地質および鉱床

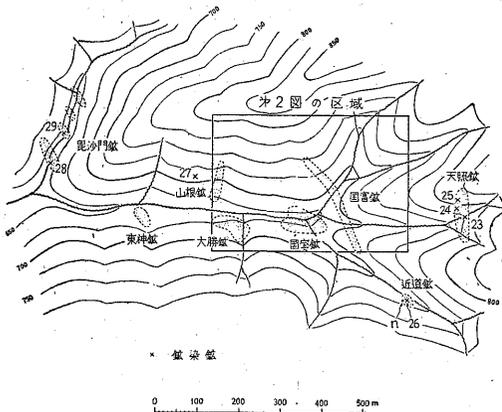
鉱床附近は日高系の変成岩すなわち侵入片麻岩・黒雲母片岩・ホルンフェルス等とこれらを含める蛇紋岩・橄欖岩・閃緑岩質斑禰岩・花崗岩等を主とし、これらの裂



第2圖 幌満鉱山第一金山沢鉄床主要部坑道分布圖

鑛に沿つて進入した優白岩質岩脈がある。

母岩をなす閃緑岩質斑礫岩は橄欖石をほとんどまったく欠き、角閃石に富むもので、所によつては相当量の黒雲母を含みしばしば石英が見られる。すなわち本鉄床の母岩はこの地域に広く見られる塩基性岩に比べて酸性の岩類に属する。



第3圖 幌満鉱山第一金山沢鉄床分布圖

鉄床は上記の閃緑岩質斑礫岩中の正岩漿性ないし高温熱水性含ニッケル磁硫鉄鉄である。鉄石は緻密塊状のいわゆる「ムク」鉄と鉄染鉄の2種があつて、前者は特に鉄化作用の著しい部分に産する。なお「ムク」鉄は鉄染鉄に比し量的にきわめて僅かである。鉄染鉄を見かけ上からさらに分類すれば、母岩中に鉄石が斑点状に分散して

第 1 表

番号	試料採取地点	Ni %	S %
1	国 富 4 号 坑	0.49	7.11
2	同 上 上	0.36	5.99
3	同 上 上	0.12	1.93
4	同 上 上	0.02	0.81
5	国 富 3 号 坑	0.83	23.86
6	同 上 上	1.06	31.35
7	同 上 上	0.24	6.97
8	同 上 上	0.27	6.07
9	同 上 上	0.38	10.37
10	同 上 上	0.19	4.37
11	同 上 上	0.99	29.07
12	同 上 上	0.16	1.87
13	同 上 上	0.19	2.67
15	同 上 上	0.24	3.39
16	国 富 2 号 坑	0.91	23.84
17	同 上 上	0.96	28.63
18	同 上 上	0.28	4.42
19	国 宝 3 号 坑	0.52	10.77
20	国 宝 2 号 坑	0.60	11.58
21	国 宝 1 号 露 頭 西 端	0.19	1.89
22	大 勝 2 号 坑 坑 口	0.47	12.07
23	戸 照 鉄 露 頭	0.50	16.40
24	天 照 鉄 露 頭	0.22	3.61
25	同 上 上	0.06	1.88
26	近 道 鉄 露 頭	0.19	5.74
27	山 根 鉄 露 頭	0.25	3.03
28	昆 沙 門 鉄 露 頭	0.20	2.95
29	同 上 上	0.22	2.48

いるものと、一様にうすく鉄染しているものとの2種に分けられる。熱水性と考えられるものはしばしば優白岩質岩脈に伴う。富鉄部の「ムク」鉄は国富3号坑にやゝ大きな塊状をなすもの(約300t、ほとんど採掘済)があ

第 2 表

番号	試料採取地点	Ni %	Co %	Cu %	Fe %	S %
a	国富百尺露頭北端	0.32	0.06	0.20	16.22	9.37
b	同上 中間	0.30	0.01	0.13	12.66	7.28
c	同上 中間	0.36	0.03	0.19	15.73	9.30
d	同上 南端	1.11	0.21	0.11	38.67	32.46
e	国富3号坑坑口貯鉱	0.86	0.13	0.52	42.89	29.48
f	国富2号坑	1.08	0.15	0.35	46.00	30.96
g	国富4号坑	1.41	0.23	0.51	53.37	34.99
h	同上 露頭	0.43	0.06	0.71	18.00	11.35
i	国富3号坑	0.52	0.07	4.17	25.27	18.13
j	同上 坑口	0.55	0.03	0.38	23.03	12.79
k	国富2号坑坑口貯鉱	1.44	0.10	0.13	55.31	35.49
l	大勝4号坑坑口貯鉱	0.73	0.09	0.71	40.12	25.82
m	大勝2号坑	1.05	0.16	0.32	54.98	36.24
n	近道鉱露頭	0.94	0.21	0.44	43.78	9.22

るほかは、おおむね小塊状ないし脈状をなす。鉱染部の走向・傾斜は未だ開発が進んでいないので全貌は判明しない。

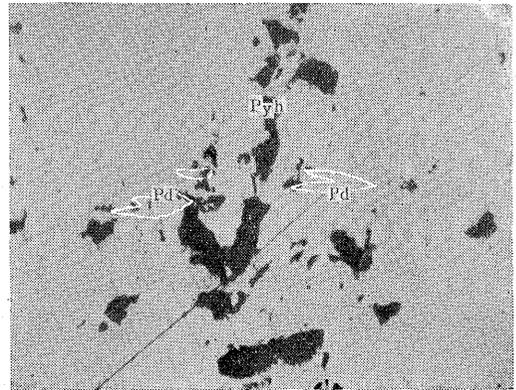
筆者等が採取した試料についての分析結果が第1表および第2表に示されている。第1表は鉱染鉱、第2表は「ムク」鉱であり、試料採取箇所および番号は第2図および第3図に示してある。

なお図版第Iは「ムク」鉱における磁硫鉄鉱中に硫鉄ニッケル鉱 (Pentlandite) が火焔状に介在するもの (国富2号坑内、試料番号 f)、また図版第IIは優白質岩の破碎部を充填して黄銅鉱が胚胎するもの (国富3号坑坑口、試料番号 i) である。銅品位の高い鉱石は黄銅鉱が磁硫鉄鉱と密雑して共存するものより、むしろ優白質岩に伴うものに多く、この種の黄銅鉱はやゝ後期の晶出と考えられる。磁硫鉄鉱は径 0.2~1 mm の粒状をなすものが多く、有色鉱物の粒間を不規則に充填しあるいは黒雲母中に包裹される。

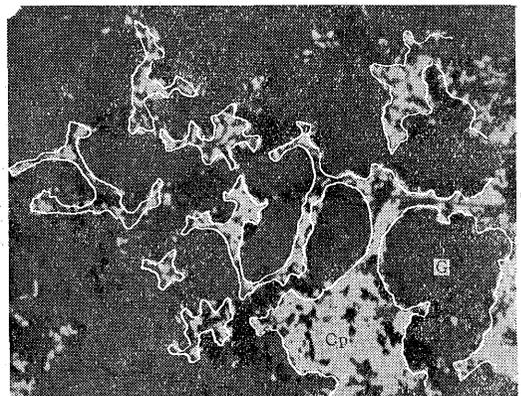
5. 結 語

かつてもつばら採掘の対象となつた「ムク」鉱は鉱量が少ないので、今後の稼行の対象としてはむしろ鉱染鉱を主とすべきであろう。鉱染鉱は相当の鉱量を予想しうるから、低品位鉱処理に一応の見通しがついた現在有望な鉱山であろうと考えられる。

(昭和27年8月調査)



図版第 I ×340
Pyh: Pyrrhotite Pd: Pentlandite



図版第 II ×120
Cp: Chalcopyrite G: Gangue

文 献

- 山根新次: 日高国南部及び十勝国広尾郡調査報告, 地質調査所鉱物調査報告 第4号(1911)
- 大平 要: 日高国幌泉地方の地質学的及び岩石学的研究, 地質学雑誌, 35巻416~417号(1928)
- 北海道工業試験所: 5万分の1様似図幅
- 赤岡純一郎: 日高国幌満のニッケル鉱床に就て, 地質学雑誌, 46巻549号(1939)
- 石井清彦: 北海道日高国様似郡「ニッケル」鉱床調査報告文, 地質調査所報告 別輯 第1号(1942)
- 小林治夫: 北海道日高国幌満鉱山産コバルト鉱物, 地質学雑誌, 50巻592号(1943)